

平成 27 年度第 1 回岡崎市水循環推進協議会「緑のダム部会」 会議録

1 会議の日時

平成 27 年 7 月 27 日（月） 午前 9 時 30 分～午前 12 時

2 会議の場所

岡崎市役所東庁舎 5 階 501 号室

3 会議の議題

- (1) 岡崎市の森林及び水道事業に関する現状について
- (2) 岡崎市の森林の緑のダム機能の評価について

4 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員

学識経験者 蔵治 光一郎（部会長）

関係団体 眞木 宏哉

関係団体 松田 直人

市民 檀 広実

市民 中根 久雄

市民 延地 曠行

市民 山口 晴江

(2) 欠席委員

学識経験者 長谷川 明子

5 事務局職員

環境部長 山田 康生

環境部次長（環境総務課長兼務） 柴田 耕平

環境部次長（廃棄物対策課長兼務） 柴田 和幸

環境総務課 総務調整班班長 岡田 武士

環境総務課 総務調整班主任主査 新家 孝義

環境総務課 総務調整班事務員 井上 崇也

環境保全課 自然共生班班長 蜂須賀 功

林務課 林政班主任主査 鈴木 智

林務課 林政班主事 齋藤 大祐

都市計画課 土地利用班班長 植山 諭

- 6 部会長あいさつ
- 7 議事録署名委員の指名
部会長が議事録署名人として眞木委員を指名した。
- 8 会議の公開
本日の部会を公開することとした。(傍聴者3名)
- 9 議事1 岡崎市の森林及び水道事業の現状について
ア 森林について説明
資料1及び岡崎市森林整備ビジョン(概要版)に基づき説明(林務課)

質疑、応答

延地委員：

資料1の森林資源状況について、蓄積という言葉があるが、これは何を示しているのか。

事務局：(林務課主任主査)

広さを面積、生えている木の容積の合計を蓄積として表記している。

檀委員：

蓄積というのは、木1本およその容積に生えている本数分をかけるイメージで良いのか。

事務局：(林務課主任主査)

木は日々成長しているもので正確に出すのは難しい。昨年度と比べて間伐などの大きな変化があったかどうかで愛知県が数字を出している。

蔵治部会長：

資料1の森林資源の状況について、マツ類が人工林と天然林両方に記載されているが、どういった違いがあるのか。

事務局：(林務課主任主査)

区別をどのように集計していたのか把握していない。一度持ち帰らせていただきたい。

延地委員：

資料1の岡崎市域間伐実績について、平成22年度の合計が約525haと他の年に比べ、約100ha多いのはなぜか。

事務局：(林務課主事)

項目別に見たとき、最も多くなっているのは、公共造林事業である。これは、国県の補助事業であり、補助事業の基準が変わる前の最後の年ということで、いわゆる駆け込み状態となり、増加したと分析されている。

檀委員：

資料1の岡崎市域間伐実績において、平成26年度の合計が約246haと平成22年度の半分になっているのには、どんな要因があるのか。

事務局：(林務課主事)

市の予算の都合や、事業の基準が変わったことが挙げられる。例えば、公共造林事業でいうと22年度までは切捨て間伐のみでも補助金が出ていたが、国県の方針が変わり、搬出間伐に切り替わったことで従来まで補助対象であった切捨て間伐の実施面積が減少したためとも考えられる。

蔵治部会長：

先ほどの質問の回答の補足をすると、平成25年度の合計実績より約100ha減っているのは、あいち森と緑づくり森林整備事業の実績が約100ha減っていることと対応している。このあいち森と緑づくり森林整備事業は、森林環境税という県民税に毎年500円上乗せして徴収されている税金で間伐を実施しているものである。この事業の間伐実績が約100ha減少している点について林務課から説明をしてほしい。

事務局：(林務課主事)

指摘のとおり、平成25年度から平成26年度のあいち森と緑づくり森林整備事業において約100ha減少している。これは、この事業が現在条例で平成21年から平成31年までの10年間となっており、その中間の5年で区切りの年度となっていた。そして駆け込みを想定して予算を多く取っていた。平成26年度は、5年単位でいうと最初の年ということもあり、前年度と比べ減少していることが考えられる。毎年、事業としては、100～120ha分の予算がつくと聞いている。

眞木委員：

あいち森と緑づくり森林整備事業は当初5年の時限措置で、平成21年から始

まり平成 25 年に終了する予定であった。ところが、県の議会で議論があり、延長することが決定された。そういった経緯から平成 25 年度は実績が増えたが、その反動で平成 26 年度の実績が減っている。平成 30 年度には終了する予定であるが、また延長の是非について同じ議論がされると思われる。

蔵治部会長：

参考までに今の岡崎市長である内田市長が県議会議員であった時、このあいち森と緑づくり森林整備事業開始に尽力したと聞いている。この制度について、熟知されている。

檀委員：

保安林図に保安林の種類として保健・風致があるが、この保健というのは何か。

事務局：(林務課主任主査)

森林整備ビジョン概要版に記載されている森林の主な働きに保健・レクリエーションがあるが、心身のリフレッシュ効果を与えている森林に指定されているという意味である。

眞木委員：

先ほど、マツの話があったが、もともとあったものだけでなく、昔にマツを尾根等に植林したという話もある。

中根委員：

岡崎市森林整備ビジョンを見ると、2010 年時点での年間平均間伐の実地 211ha であり、間伐必要森林は 7,798ha であり、全てを間伐するのに 35 年かかるという試算が掲載されているが、そういう認識でよいのか。

事務局：(林務課主任主査)

ビジョンを策定した際、そのような試算を掲載したが、現在人工林のスギ・ヒノキが 10,000ha 強程度あり、それを毎年 450ha 間伐することを目標にした。しかし、そのペースだと 20 年から 25 年程度かかることになり、それが達成可能かという課題はある。

蔵治部会長：

目標として 450ha を掲げてはいるが、実績としては 246ha であり、6 割程度という評価をせざるを得ない。その実績が今年度、来年度において伸びる要素は無いのか。

事務局：(林務課主任主査)
現状、そういった要素は無い。

中根委員：
間伐が進まない状況の原因としては、予算の問題が一番大きいのか。

事務局：(林務課主任主査)
大きいかどうかでいえば、半分だと考えている。もう半分は人の問題だと考えている。間伐を進めるにあって、お金があってもそれを使う人がいなければいけない。マンパワーとお金の両極揃って初めて進むものと考えている。

中根委員：
人の問題も予算があれば解決するのではないか。

事務局：(林務課主任主査)
動ける人間の絶対数が足りてないと感じている。アルバイトを雇えば解決するという簡単な話ではない。

檀委員：
お金だけあっても進まないのは、間伐に対する理解が進んでおらず、市民の中で応援しようという気持ちが足りてないからではないか。

事務局：(林務課主任主査)
岡崎市内にボランティアで間伐を行う団体があるが、人数が少なく目標達成には足りていない現状である。

イ 水道について説明
資料2に基づき説明(上下水道局総務課)

質疑、応答

山口委員：
下水道の整備は額田地域でも間に合っているのか。

事務局：(上下水道局総務課主任主査)
有害な物質が河川に流入しないように監視したり、工場に対して指導をするなどしている。ただ、流入したものは調べるのが難しいので、下水道の整備を進め、対応していきたいと考えている。

山口委員：

下水の処理はどこで行っているのか。

事務局：(上下水道局総務課主任主査)

岡崎市については、西尾市にある処理場へ送り処理している。

眞木委員：

自己水と受水の割合は西三河の他都市ではどのようになっているか。

事務局：(上下水道局総務課主任主査)

岡崎市と同規模の事業体として豊田市と豊橋市が挙げられると思う。豊田市では受水が多い。豊橋市については知識がなくお答えできない。ただ、岡崎市は他都市と比べると、圧倒的に自己水が多い。

眞木委員：

他都市での自己水と受水の割合を数字で教えていただきたい。

事務局：(上下水道局総務課主任主査)

数字を今持ち合わせていないので、次回以降回答させていただきたい。

檀委員：

豊田市は、基金を作って政策を行っているようだが、岡崎市は今のところそういったことは行わないのか。

延地委員：

水道1トン当たり1円の基金があると本で読んだことがある。旧額田町時代にはそうした基金があったが、岡崎市となってからそれは無くなったのか。また将来そうしたビジョンは持っているのか。

事務局：(環境部次長(環境総務課長兼務))

今後政策的な提案については、いただくこともあるかと思うが、今この場では政策的な意見としては申し上げることはできない。ただ、旧額田町の時には、確かに1、2年ほどやっていたが、合併の際、協議の中で、岡崎市として引き継がないとした経緯がある。

蔵治部会長：

緑のダム部会の責務としては、市長からの諮問に対する答申を出すということにある。その答申の中で、必要だと考えるのであれば、市民からお金を集めて基

金を作ることもありうる。ただ、全国の様々なケースを見てきた中で考えるのは、お金を集めることが先にあるのではなく、何をやらなければならないかを先に決めるべきである。その後にその施策についてお金があれば解決するのか、また別の問題があるのかを考えていくことになる。

中根委員：

資料2の中に2030年には現況より河川流量が減少するとあるが、上下水道局の方で何らかのデータをとっているのか。

事務局：(上下水道局総務課主任主査)

水量予測のデータを上下水道局の方では持ち合わせていない。

事務局：(環境保全課自然共生班長)

補足として、水量については国が吹矢橋の地点、県が茅原沢の地点で観測している。岡崎市としては、先日の水循環推進協議会の資料として出したもので、岡崎市上水道取入口と細川頭首工の地点で職員が観測しているものがある。流量予測で減少するとしているのは、乙川下流域で予測したもので、これは当時八帖の下水処理場が移管すると決まっていたためその分の水量が減ってくるというものである。

事務局：(環境部次長(環境総務課長兼務))

先日の諮問資料の中に水環境創造プランの水量予測に関する部分を記載している。

蔵治部会長：

前回の資料にデータがあったが、あくまでピンポイントで調査したもので連続観測のデータではない。次回以降、国・県のデータを収集し、分析し、流量を調べるべきである。

中根委員：

岡崎市の配水量1 m³当たりの電気消費量を近隣団体と比較したとき、0.1程度高いのはなぜか。

事務局：(上下水道局総務課主任主査)

近隣団体は自己水の比率が低い、岡崎市は自己水比率が高く、浄水場で水を作るのに電気を多く使うため、他団体より電気使用量は多くなる傾向にある。

蔵治部会長：

受水というのは県営の水を買っているわけで、県がそのお金でエネルギーを使用している。その分の使用量はデータの中には入っていない分、低く出てくる。それは、県営水道に依存しているともいえ、ダム建設等の経費の影響を受けやすい。その意味で岡崎市は持続可能な水道体系といえる。

延地委員：

資料2について計画1日最大給水量が第4期拡張事業から第5期拡張事業において人口は増えているにもかかわらず、10,000 m³減っているのは、岡崎市は余裕があるということか。

事務局：（上下水道局総務課主任主査）

当初の見込みより実際の使用量が少ない場合は、実績を踏まえて計画水量を落としているので、減っていても大丈夫である。

10 議事2 岡崎市の森林の緑のダム機能の評価について

岡崎市の森林の緑のダム機能の問題点について(その1)に基づき説明
(蔵治部会長)

質疑、応答

事務局：（環境部長）

資料の森の健康診断の結果で、「断面積で過密な林」と「形状比で過密な林」の比率が改善されているように数値を読み取れるが、実際はどうか。

蔵治部会長：

数値の意味としては、様々な指標がある中、それぞれ基準をおいて判断しているので、指標によっては改善されているように見えてしまう。しかし、緑のダムとして妥当な指標は何かと考えたとき、本数密度の指標が適正な指標ではないかと考えている。

また、森の健康診断の結果については、今後の部会でも引き続き、得られたデータを分析し、間伐によりどれだけ指標の値が改善され、流量が増えるのかを試算し、将来予測につなげたいと考えている。

延地委員：

資料の中にあるが、恵那市は2006～7年から2012年にかけてどのようにして本数密度を減らしたのか。

蔵治部会長：

なぜ減ったかについては、5年間に森林組合や民間業者が集中的に間伐事業を

行ったからだと分析されている。

11 閉会

12 その他

事務局から次回部会が現地視察であることを伝え、日程については事務局で決定次第通知する旨伝える。